



臨床工学技士通信 No 5

07/Jan

新年明けまして、おめでとうございます。

本年も宜しくお願いします。



今回の臨床工学技士通信は、ME 機器（輸液ポンプ）についてです。

輸液ポンプにまつわる医療事故は後を絶ちません。患者様や自分自身を守る為にも再度、安全な使い方を確認してみませんか？

突然ですが、設定量が時間経過しても入っていないとか？入り過ぎとか？の流量精度がよくないな～経験はありませんか？

原因としては、

① 輸液セット（チューブ）が正しくセットされていない

理由：輸液セット（チューブ）が、折れ・つぶれ・たるみがなく、まっすぐセットされていないと、ポンプは**正常な送液が行なわれず**、薬液の過大注入や未投与等の原因になります。

② 同じ輸液セットを何日間も連続して、同じ場所で使用しない

理由：何日間も同じ位置でチューブを使用していると、チューブがへたってしまい弾力が落ち、薬液が流れにくくなります。目安としては**24 時間毎にポンプ装着部(セット部)チューブの位置を最低 15cm 以上ずらすか新しい輸液セットに交換**下さい。

③ ポンプに衝撃を加えた

理由：落下等の衝撃によりポンプのドアなどが破損すると、チューブ圧閉力が弱くなり、**フリーフローの状態**になることがあります。

* 本体の**外観に異常が無くても、内部が故障している事も有ります**ので、衝撃を加えたポンプは**使用中止**して下さい。

④ ポンプを清掃していない

理由：液だれ等で、ポンプ駆動部（フィンガー部）に薬液などの**汚れが付着していると**、ポンプに**負荷がかかって正常に作動しない事**があります。また**薬液の浸入によってポンプの電子部品が故障する**こともあります。



以上4つが流量誤差の主な原因です。今後は、少しずつ輸液ポンプについてやりたいと思います。

CE Watanabe